

基 調 講 演

テーマ：豪雨による自然災害に対する防災・減災と取組

講 師：鳥取大学教授（学術研究院工学系部門） 三輪 浩



略 歴

昭和 61 年 4 月 国立舞鶴工業高等専門学校 助手
平成 9 年 4 月 国立舞鶴工業高等専門学校 助教授
平成 21 年 10 月 米国イリノイ大学 客員研究員（平成 22 年 9 月まで）
平成 23 年 4 月 国立舞鶴工業高等専門学校 教授
平成 30 年 4 月 鳥取大学 教授（現在に至る）

研究活動・著書他

ダム下流河川や中・下流河川，河口部における流砂と河床変動および河床形態に関する研究を行っている。とくに，混合砂礫の流砂機構やそれが河床変動に及ぼす影響について一貫した検討を続けている。最近の研究課題は河川中・下流域における置き土の効果的設置・運用手法の検討，礫床河川への砂供給による河床変動の機構，UAV による河川・河口地形の測量技術の高度化などである。また，流砂系一環の観点から，山地河川から河口までの土砂動態の把握・分析手法についても検討を行っている。

- ・ PEL 水理学，分担執筆，実教出版(株)，2016 年 10 月．
- ・ 水理実験解説書，分担執筆，土木学会，2015 年 2 月．
- ・ Miwa, H., Omura, M., Wada, T., Kato, Y. and Kanda, K.: Dynamic state of river-mouth bar in Yuragawa River and application of drone photography image to obtain its topographical data, *Proceedings of the 22nd IAHR-APD Congress*, 2020.
- ・ 三輪 浩，山田啓太郎：粗粒化河床への覆砂による礫の移動と流路変動，河川技術論文集，第 24 巻，pp.89-94，2018.
- ・ Miwa, H. and Parker, G.: Effects of sand content on initial gravel motion in gravel-bed rivers, *Earth Surface Processes and Landforms*, Vol. 42, Issue 9, pp.1355-1364, 2017.

講演概要等

我が国は自然災害を受けやすい素因となる国土を有するとともに，災害の誘因としての多様な自然現象が生起する状況にある。その結果，河川関係に限っても甚大な災害が多発しており，その対策が重要な課題となっている。21 世紀に入って既に 20 年が経過，毎年のように豪雨が発生し甚大な災害が生起している。このような状況に対して，これまでの治水対策をより発展させてより効果的な対応に努力が払われている。本講演では，豪雨による土砂・洪水災害とその対策に対して，我が国で進められている最近の取り組みについて説明するとともに，住民の防災力にも言及した防災・減災について講演する。講演はできるだけ専門に偏らず，比較的わかりやすい内容となるよう留意する。